

しんぎ

出世鯉

名誉館長 三 隅 治 雄



魚類の中でも「出世魚」と呼ばれるものがあります。ひとつは、当初ワカシなどと呼ばれたものが、成長するにつれて、イナダ→ワラサ(ハマチ)→ブリと名前をかえる類の魚をいいます。ボラ・スズキなどもそうです。もうひとつは鯉の異称です。中国の『後漢書』に、「黄河上流の竜門の滝を昇りきった鯉は、竜に変じて昇天する」とあり、人間が目覚しい勢いで立身出世するさまを「鯉の滝登り」などといいました。出世昇進へのコースが約束される関門となる厳しい試験・審査の場を「登竜門」と称したのも、その伝説に由来します。

鯉はまた、「鯉のひと跳ね」といって、捕まえられたときは、一度だけ跳ねるが、あとはじたばたせず、また、眼をふさいでおけば、跳びはねないといった性格があります。その健気で、物怖じせぬ、毅然としたさまが、男子のあるべき姿と讃えられて、五月節句に鯉幟を揚げる風習を生みました。男児誕生の初節句に鯉幟を贈る慣習も、そこから出たものです。料理でも、同じ出世魚のブリ同様、祝儀の魚と珍重されています。

文化財よもやま話

ゆく川の流れの如く

今年、国連が「国際淡水の年」と宣言した「水の年」だそうです。命が保たれるためには、清浄な空気と水は欠かせません。豊かな水に支えられる「瑞穂」の国・日本。その恩恵にあやかりつつも、日常においてはなかなか意識することがないのも、現状ではないでしょうか。

中野区には、四つの河川が流れています。北から、江古田川・妙正寺川・桃園川（現在暗渠）・神田川です。生活を営む人々を潤している川にも、さまざまな歴史や物語があり、その姿とともに命は育まれてきました。今回、その風景のひとつ、川で営まれた生業に焦点を当てることにします。

三鷹市井の頭4の井の頭池を水源とする神田川は、区内南部を北東へと進みながら新宿区界を流れ、まさに「水が落ち合う場所」新宿区落合で、杉並区妙正寺池を水源とする妙正寺川と合流します。この川の沿線では、染物関係の職業が発展し、職人たちが集まりました。「水元」という糊を落とす作業で大量の清浄な水を必要とするため、大正末期から下町の職人たちがさらに清浄な水を求め、上流である中野区内にも移住したのです。川に挿した竹の棒に引っかけた布を晒している光景が川の流域でもよく見られたそうです。河原には蛍やトンボ、水中にはウナギやフナがいた川辺は、かつて子供達にとっても格好の遊び場でした。護岸工事でなかなか川に入れなくなったのと、水量の減少、水の汚染によって井戸を掘って利用するようになったなどの理由で昭和30年代以降は、それも思い出の中の景色となってしまいました。

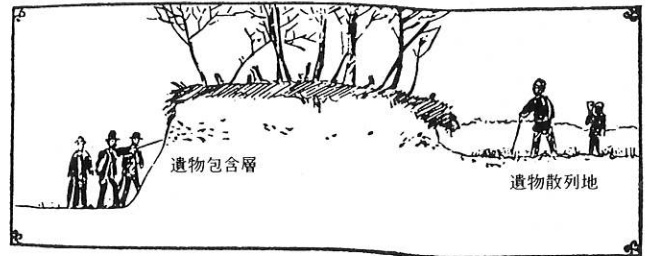
「洗い張り屋」「練り屋」「抜き屋」「染屋」「無地屋」「しみ抜き屋」「湯のし屋」「糊屋」「蒸し屋」「刺繍屋」「紋屋」「型紙屋」「仕立て屋」などの職人による着物の製作・リサイクルには、それぞれ技と集中力が要されます。分業化された店が集中してあったのが、桃園川と神田川の合流地・小澁(中央1)界隈でした。青梅街道から大久保通りまで行く間に白い布が着物になった、と言われる程専門店が軒を並べており、「染物横丁」と呼ばれていました。昭和初期のにぎわいや風物詩も、今は需要の減少、後継者不足によってすっかり変化し、その面影は薄れつつあります。

大地に眠る歴史

昔の人は遺跡をどう見たか(8)

日本考古学がはじまった明治時代の前半期には、遺跡は現在の地表面に残されているものと考えられていました。これは、ギリシャやローマの神殿、エジプトのピラミッドなどが現在の地表面からその偉容を誇っていたことから想定されていたものです。明治最初の発掘調査である大森貝塚でさえ地表面に貝が散らばっていたため、遺跡が地中に埋もれているという現在の常識とは違った感覚でとらえていました。

そのため、当時の考古学者は、畑などに土器片が散らばっているところがかつて昔の人の集落などのあった地表面で、今は住居などはなくなっているものと認識していました。ところが、遺跡はそれよりも下の地中に存在していたのです。



「遺物包含層」と「遺物散列地」
(鳥居龍蔵・大野延太郎による・『日本の古代遺跡』32より)

1894年、東京帝国大学の鳥居龍蔵・大野雲外が国分寺の現在のJR停車場付近を踏査している時に、工事で削られた断面を観察したところ地表面より下に土器がたくさん含まれている遺跡包含層を発見しました。これによって地表面に散らばっている遺物は、後世の耕作や削平などによって掘り返されたもので、本来その時代の地表面・遺跡の面は、もっと下に埋まっていることが明かにされたのでした。

それではなぜ埋まるのでしょうか。第一が落葉によるものです。落葉樹の育つ地域では毎年大量の落葉があり、これが腐食してやがて土になります。第二に火山灰があります。関東ローム層がその代表です。群馬県の高尾山・浅間山周辺地域では実際に火山灰に埋まった遺跡が発見されています。この二点が遺跡が埋まる原因なのです。

最近、ミミズによる説が出されています。地中に暮らすミミズは土を食糧にして、地表面に排泄するため、埋まっていくという考え方です。

斯か く べ し の 在 る

左「少年遊戯双六」 1924(大正13)年
 中「新案現代婦人双六」 1913(大正2)年
 右「少女一日すごろく」 1922(大正11)年





双六は小さい子にもよく遊べれます。そのため最初に挙げたような教訓的内容のものが多く作られました。それとは別に暗黙のうち教育の役割を果すものもありました。

「思想教育」と表現すれば刺激が強くなりますが、内実は大差ない性格をこれらの双六はもっています。さて、どんな点でしょうか？

一例を挙げれば『男の子は活発に、女の子はお淑やかに。そしてゆくゆくは結婚して家庭をつくる』という生き方を当り前のこととしている点です。ここには家事をする男の子や泥だらけになって遊ぶ女の子は存在せず、また女性にとって結婚は一つのゴールであるという観念が図らずも明瞭に表われています。

幼い頃の吸収力は驚異的です。そうした子がこのようなもので遊ぶ時、そこで語られる視点は容易に自分自身の常識となっていきます。

ここに並べた双六は、かつて同類のものが数多く作られました。そして沢山の子によって遊ばれながら、この時代の常識を形成する役割の一翼を言わず語らずのうち担っていたのです。

小さい時の環境がもたらす影響力は計り知れません。あなたは小さい頃、どのような環境・どのような物で遊びましたか。今あなたの周りには小さい子は、どのような環境・どのような物で遊んでいますか。…そして現在のあなたは？

関連用語(『社会学事典』弘文堂1988 を改変)
 インプリンティング[imprinting]: 刷込みとも。誕生直後の鳥類等が、目の前で動く物を無条件に親と見なし、後も強く愛着する現象。転じて、初期の刺激がその後に大きく影響することの比喩。
 ジェンダー[gender]: 性別役割分業とも。生物学上の性差とは別に、社会的・意識的に形成される男女の差異。いわゆる「男らしさ」「女らしさ」。
 ホモ・ルーデンス: ヒトの本質的規定を、文化上の重要性から“遊び”だとした歴史家ホイジンガの造語。ヒトの学名はホモ・サピエンス(賢いヒト)だが、これは「遊ぶヒト」といった意味。



「中野新井工商組合繁栄双六」です。1930(昭和5)年頃のもので、体裁は双六ですが実際は広告とみた方がよさそうです。双六の形式を用いた広告は意外に多く、地域振興的なものの他に同業者が集ったものや自社関連企業で揃えたものなどがあります。本資料は、原則として同格である商工組合員の集りのため各マス^(マス)のデザインも大きさも均一であること、回る方向が右回り/左回りのどちらも可能なこと、現在通例の「一回休み」に代って「泊^(とまり)」となっていること、そして横書の場合に右からと左からとが混在していることが特色です。



豊原国周「八犬伝国周双録」明治元(1868)年
 “明治の写楽”とまで呼ばれた作者にふさわしい美しい多色刷り役者絵双六。折り目以外の目立った傷みはなく、実際に遊ぶためというより見て楽しむためのものです。

本来は別物である盤雙六と絵雙六が、どうして同じ「スゴロク」という名前をもったのか明確ではありません。共通するのは“サイコロの目によってコマを動かす遊び”ということくらいでしょう。

いずれにせよ振ったサイコロのどの目がでるかで命運が分れます。実際は全くの偶然なのですが、そうではなく何らかの天意や因果律に基づくとみなされることもありました。

現在、双六で遊ぶのがほとんど正月だけになっているのは、上記のような天意や因果関係の結果という発想により新しい年の吉凶占いのため年始に行っていたのが、いつしか慣習となり一般化したとも考えられます。

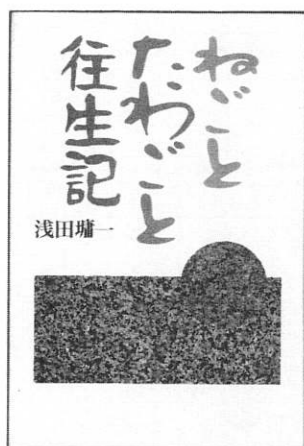
今年の年占には遅すぎますが、今年度をお手持ちの双六で占ってはいかががでしょうか。

読書のすすめと余暇

完全週休2日制

本を読むことは、他人の思想や感情に、また、新しい知識に触れることとなります。文字だけ読めても、本は読めません。辛抱して、他人・作者の語り口などを、文字を追いながら、しばらくの間はそれに追従してゆく他はないのです。テレビと異なり“知”を求めて、積極的に立ち向うのが“読書”です。

本を読むのは、文字を通して受けた語感が、読者の想像力を刺激するので、読者は今までの人生の体験を基礎にして、その刺激を自分なりに組み立て直してから理解し、自分なりのイメージをつくり出します。



人は、それほど違ったことをしているわけではありません。朝起きて、食事をして、仕事をして、恋をして、遊んで、夜になれば寝ます。テレビになれば、ほとんど、似たような

番組を見ています。それでも個人によって、もの見方、感じ方が異なります。著者は、本を読んで、それらを自分なりに編集し直し、解釈しているのです。

歴史上の人物などは、事実は不変としても、著者によって、解釈が大きく変わることがあります。例えば、忠臣蔵の大石内蔵助は、大胆で学問のある忠義の侍であるということが定説ですが、野上弥生子さんの『忠臣蔵』では、全く優柔不断の侍であって、息子の主税の采配によって、やっと仇討ができたことになっています。

これは、史実を変えずに、小説の作家が示した解釈です。読者が、自分の思想や体験に照らして解釈することがあると思います。それが上手にできるためには、読書に慣れていなければなりません。このためには、身になる本を、できるだけ多く読むことが求められます。



私たちの生活ペースは、文明・科学の進歩によ

って、あたかも時間きざみのように忙しくなってきたように思います。その一方で、私たちが生活するために必要なものを、生み出すための能力増大によって、生産維持のために必要な労働時間は次第に減り、その結果として、週休二日制がほとんどの勤労者に普及するようになりました。

このような環境の中で生まれた“余暇”を、どのようにして使うかは、ひとさまさまざまと思いますが、テレビを見て、ゴロ寝する時間が、今までより減ることは確かでしょう。それが、その時間を、ひととして自分なりの営みに使ってゆくことにつながります。すなわち、知的生活へのひとつの条件ができたことになるでしょう。自分のやりたいことを、自分なりにやってゆく時間として、子どもをはじめ、若者から老人まで、いかにして余暇を有効に過ごすかが、自分なりに追求されるようになるでしょう。

このことは、今年4月から実施された完全学校週休2日制の導入によって、子どもたちが新たに得た余暇を、いかにして有効に利用するか、についても同じでしょう。



当館には、この余暇を、有効的に過ごすための資料などを、数多く用意しています。郷土や歴史・民俗などに関する本は、分野によっては、区立図書館よりきめ細かに蔵書しています。また、区立図書館の資料とは、ひと味違ったものもあります。その資料を探し当てたひとは、幸運な方だと思います。



この本は、館外貸出することはできませんが、一階ロビーのソファーに座りながら、庭園を眺めながら、ゆったりした気分になりながら、じっくりと読書することができます。そのようにすれば、前述の“知を求めて積極的に立ち向かう読書”ができると思います。

事業報告

各種事業経過

2002年10月～2003年3月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「豊国・国芳・歌川派」－未公開浮世絵を一挙展示－	10/1～12/15
	「おひなさま展」－旧家に伝わる江戸時代のおひなさまを中心に展示－	2/8～3/9
	「秋季所蔵名品展－旧家の佳品」－山崎家茶室書院の調度品を展示－	10/1～1/31
	「冬季所蔵名品展－浮世絵の競演」	2/7～3/31
文化財公開	山崎家茶室・書院公開	11/1～10
古文書講座	入門コース 講師：笠原 綾氏（日本放送協会学園専任講師）	10/5
文化財調査	江古田・沼袋地区民俗調査 青梅街道周辺地区民俗調査報告書刊行作業	継続中 3/20刊行
埋蔵文化財	江原町二丁目1番民有地立会調査	10/29
	江古田一丁目34番民有地立会調査	10/29
	本町六丁目16番民有地立会調査	10/29
	中野一丁目33番区有地確認調査	10/24・25
	江原町二丁目17番民有地立会調査	11/13
	本町六丁目16番民有地試掘調査（国庫補助対象事業）	11/27
	江原町一丁目24番民有地立会調査	12/18
	弥生町三丁目35番民有地立会調査	1/23
	江原町一丁目24番民有地試掘調査	1/23・24
	江原町三丁目15番民有地立会調査	2/17
そ の 他	中野一丁目33番区有地本調査（城山居館遺跡）	2/18～3/31
	松が丘二丁目28番民有地試掘調査（国庫補助対象事業）	3/5
	江古田三丁目14番区有地確認調査（国庫補助対象事業）	3/12～14
そ の 他	小学校3・4年総合学習見学：24校	10月～2月

寄贈資料一覧 2002年8月～2003年1月

敬称略 受入順

資料名	点数	氏名
絆天・柳行李・裁縫へら	3点	金子弥生
蚊帳・ラッパ・貯金通帳	3点	芳川 巖
鷺宮囃子楽譜ほか	一式	矢島幸雄
人形・飾り太刀(玩具)	3点	福 蔵 院
雛人形・五月人形	3組	立石英一
書籍	1点	平野 鐘
ゆで卵器	1点	安方桃子
熊手	1点	佐久間寛
割引勸業債券・双眼鏡	2点	田中永子

入館状況

2002年9月～2003年2月（延143日間）（人）

一 般	団 体	学校教育	合 計
11,123	100	1,241	12,464

NEWS 新刊案内

『中野区第三次民俗調査報告 青梅街道周辺地域』
区内中央から南部の生活変遷・伝承の調査報告です。

雛人形・鐘馗様人形	一式	原 真理
子供服(軍服仕様)ほか	一式	代居倫太郎
教員任命証(戦前)ほか	22点	花澤怜子
雛人形・五月人形	2組	尾池成人
おひつ・茶盆	3点	後藤ハツ子

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

発行年月日2003年4月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田 4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX03(3319)9119

(印刷物登録番号 14中教生第9号)

 R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています